4年4組　単元名「もちもち茶屋を開こう」（全 52 時間）　1次案

	子どもの声・姿・意識 （総合的な学習の時間→総合）	活動の展開	教師の関わり（手立て）	単元の評価規準 ○知識・理解　◎思考・判断・表現　●主体的に学習に取り組む態度 ＜キャリア・未来デザイン教育の視点＞　［探究的な学びの視点］
	「1年間を通して扱う材を決め、材について詳しく知る」（12）			
一学期	・3年生のときは、竹・紙・大蔵大根・お皿・竹灯をやって楽しかった。 ・今年は食べ物を作って食べたい。 ・「和」のイメージは、「もち」「折り紙」「だるま」「茶道」「だんご」「まんじゅう」「着物」「畳」「和菓子」「和食器」。 ・自分で作ったもちを、自分たちで作ったお皿やお箸で食べるのはどうだろうか。 ・11月の研究発表の時に、来てくれた人たちに食べてもらいたい。 ・おもちとお団子って何が違うのかな。 ・材料は何を用意したらいいんだろうか。 ・おもちが嫌いな人でも食べてもらえるように、いろいろな食べ物を作ったらどうだろうか。 ・何回も作って、もっともっともっとおいしいおもちを作ってみたい。 ・この道具はどうやって用意したらいいのかな。 ・おもちとわらび餅って材料が違ったんだ。 ・材料はどのくらい用意すればいいのかな ・家庭科室に道具はあるかな。 ・冷やすのはどうやったらいいだろう。 ・どうやって手に入れたらいいのかな。 ・おいしくできた！ ・もっとおいしくしてみたいな。 ・ほかの作り方はないか調べて作ってみたい。	○昨年度の総合について振り返り、新年度の総合の学年テーマ「和」からイメージを膨らませ、学級のテーマを決める。(2) ○どんなもちがあるのか、種類や作り方を調べる。(1) ○作りたいもちを選び、グループに分かれる(1) ○作り方や材料、必要な道具を調べ、もち作り計画を立て、実際にもちや団子を作ってみる(8)	・昨年度の総合を思い出し、今年度のテーマに興味をもてるようにする。 ・児童が「和」をテーマにイメージするものを付箋に書き出し、クラス全体の「和」のイメージを整理する。 ・もちが苦手な子も興味をもって活動を行えるように、せんべいやあられなど主材料も同じ食べ物も開発してよいことを伝える。 ・安全を守るために、家庭科室の使い方や衛生について学習する機会を作る。 ・使える時数をあらかじめ子どもに伝えることで、学習の見通しをもって計画を立てられるようにする。 ・使えるお金、時間をあらかじめ紹介する。 ・ワークシートを用意し、時間的な流れを意識できるようにする ・家庭科室の使い方を事前に学習し、使える道具を探す時間を作る。	［1：課題を見出し、把握している］ ＜③課題対応能力＞ ＜④キャリアプランニング能力＞ ○もちには様々な種類や歴史があり、日本の食文化の一つであることを理解している。 ＜②自己理解・自己管理能力＞
	「自分の追究したいもちを繰り返し作る。課題と向き合い、上手くなる」（15）			
二学期	・米粉と水を混ぜて、どれくらい練ればよいのだろう。 ・上手く丸い形にならないなあ。 ・形を整えるのが難しい。 ・思った通りの食感にならないなあ。 ・甘さが足りないな。もっと甘くしたい。 ・しょっぱい味にも挑戦したい！ ・使う道具を変えると味や触感は変化するのかな？ ・いままでにないもちの種類を考えてみたいな。 ・プロにコツを聞いてみたい！ ・いろんな人に見てもらい、食べてもらいたいな！	○もち作りに取り組み、さらにおいしいもちを作るにはどうしたらよいのかを考え、探究する。(12) ○どんな人に食べてもらいたいかなど、相手意識をもち、もち作りの内容を再考する。(3)	・おいしいもちとはどんなもちか、作る際に大事にする観点を聞く。 ・今までの学習を生かせるように、学習のあゆみを掲示し、振り返りしやすいようにする。 ・1学期のもち作りから同様の準備手順を示し、効率よく素早く準備できるよう環境を整える。	◎もち作りやもちの魅力発信を目指して必要な情報を、手段を選択して収集している。 ［1：課題を見出し、把握している］［2：課題解決の方法を考えている］［3：協働して学んでいる］ ＜①人間関係形成・社会形成能力＞ ●自己の取組を振り返ることを通して、よりおいしいもちを作ろうと探究活動にすすんで取り組もうとしている。 ◎もち作りやもちの魅力発信を目指して収集した情報を、取捨選択したり、複数の情報や考えを比較したり、関連付けたり焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。 ［4：学びを振り返り、次につなげている］ ＜①人間関係形成・社会形成能力＞＜②自己理解・自己管理能力＞＜③課題対応能力＞ ＜④キャリアプランニング能力＞

	「茶屋を開くために、お茶、食器、飾りなど『和』にかかわるものを他教科とつなげて広げる」（15）			
二学期	・世田谷に昔からお茶屋って、あるんだ。 ・昔のお茶屋みたいに、みんなが休憩できるようにしたらいいんじゃないかな。 ・茶屋の歴史をもっと調べてみたいな ・3 年生の学習でやったことを活かして、何か作れないかな。 ・茶屋を作るのに、5 組の作っている和紙を使わせてもらえないかな？ ・伴先生が竹とお皿に詳しいから、聞いてみよう。	○茶屋を開くには、もちのほかにどんな物が必要かを考え、それらを用意するグループに分かれる。（2） ・食器（はし・お皿） ・飲み物（抹茶・ほうじ茶・緑茶） ・飾り（折り紙・切り絵・習字） ・音響（和楽器・虫の声） ・衣装（着物） ○ほかのクラスの「和」とコラボするなどして、もちもち茶屋に必要なものを用意していく。（13）	・世田谷区の地名である「三軒茶屋」の由来を紹介し、自分たちと茶屋がつながっていることを意識させ、茶屋への意欲を高める ・去年の総合的な学習の時間を振り返り、3 年生で学んだお皿や竹細工を活用できることを確認し、茶屋へのイメージを具体的に考えられるようにする。	[1:課題を見出し、把握している] ＜③課題対応能力＞ ＜④キャリアプランニング能力＞ ○世田谷の歴史と茶屋のつながりに気付くことができる。
	『和』の魅力を広げる。1 年の成果となるもちもち茶屋（仮）を開き、地域や保護者を招待する。（10）			
三学期	・学習発表会でもちの魅力を伝えたい！ ・自分たちの成長を、関わった方に見てもらいたい！ ・自分たちの考えたオリジナルもちを紹介したい！ ・他の学年の人にもち作りの楽しさ、もちの魅力を紹介したい！ ・探究することが楽しかった！ ・おうちの人に食べて喜んでもらえたのが嬉しい！	○もちの魅力をまとめる。（3） ○学習発表会等でもちの魅力を紹介する。（2） ○おうちの方を招き、「もちもち茶屋（仮）」を開催するために準備をする。（4） ○今年度の成果と課題をまとめる。（1）	・今までの活動の写真をもとに、自分たちにしかできない魅力発信を考えるよう促す。 ・今までの学習の軌跡について、児童が自分の成長を、実感をもって話すことができるようたくさん記録をとっておく。 ・せんべい作りを通して学んだことを5年生につなげるためにキャリア・パスポートを活用する。	○活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらまとめる方法が分かっている。[2:課題解決の方法を考えている] ●もちの魅力を発信するために、友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に向けて取り組もうとしている。　[3:協働して学んでいる] ◎伝える相手や目的に応じて考えをまとめ、もち作りの方法やもちの魅力を適切な方法で表現している。[4:学びを振り返り、次につなげている] ＜④キャリアプランニング能力＞＜②自己理解・自己管理能力＞

材（もち作り）のもつ価値

・もち作りを繰り返し行い、新たな課題を見付け、その課題に向き合いおいしさを追究することで、課題を解決する力を身に付けることができる。
・もちは身近な食べ物なので、手作りのものと市販のものを食べ比べることができる。
・自分の作ったもちを食べてもらい、おいしいと言われることで達成感を得ることができる。
・もちの作り方や味付けなどを繰り返し考え、試すことで、材に対する強い思いがうまれ、探究することができる。
・もちつきや作ったもちを食べてもらうという形で、地域の人々とつながりながら活動することができる。

材（もち作り）に寄せる子どもたちの思いや願い

★<u>手作りのもちを食べたいと願っている。</u>
☆もち作りを楽しみたいと思っている。
☆味付けや見た目を工夫することで、たくさんの人にもちを好きになってもらいたいと考えている。
☆もちについて深く知ることで、もちの魅力を多くの人に伝えたいと考えている。
☆もち作りを通して、地域とつながりたいと考えている。
☆もち作りを通して、与えられる側から与える側になりたいと考えている。

★…子どもたちの深層にあると予想される求め・思い・願い